

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

東広島市立平岩小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	89	80	74	76	61	80	460	11	471
学級数	3	3	3	3	2	2	16	3	19

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	A	A	推進	専科	専科	A	A	A	A	A	A	A
5年2組 (担任：B)	B	B	B	推進	専科	専科	B	B	B	B	B	B	B

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：C)	C	C	C	推進	専科	専科	C	専科	C	C	C	C	C
6年2組 (担任：D)	D	D	D	推進	専科	専科	D	専科	D	D	D	D	D

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

① 【授業の質の向上】

- ・授業のあらゆる場面でタブレットを積極的に活用した。
- ・「こんなノートを作ってほしい」というサンプルノートを毎時間電子黒板に提示するとともに、Google Classroom のストリーム上に掲示した。
- ・グッドノートを Google Classroom に掲示した。
- ・紙媒体のドリルに加え、タブレットドリル（ドリルパーク）を活用して、習熟を図った。
- ・単元末テスト後のアンケートを Google フォームで行った。
- ・つまずき例の提示を昨年度の事例をもとに行った。
- ・多様な考えを出させる授業ではスタディノートを活用した。



② 【多面的な児童理解】

職員室の座席配置を5・6年の隣に推進教員、専科教員を配置した。(右が高学年の座席配置)

5年2組	5年1組	理科専科	SSS
6年2組	6年1組	算数専科	音楽専科

③ 【小・中学校の円滑な接続】

理科、音楽科、家庭科に加えて、算数科も教科担任制にすることで専科教科を増やした。

④ 【教師の負担軽減】

算数科の家庭学習の点検は推進教員が行った。



<成果>

① 【授業の質の向上】

- ・手元のタブレットにサンプルノートがあることで、教師の板書を待つ時間の減少につながった。
- ・余裕ができた時間を友だちに教える等の協働的な学びへつなぐことができた。
- ・スタディノートは多様な考えを電子黒板上ですべてを確認することができ、分類・比較するのに役立った。



② 【多面的な児童理解】

放課後の情報共有が日常的なものとなり、推進教員と担任が連携することで、児童の多面的理解につながった。

③ 【小・中学校の円滑な接続】

授業が毎日ある算数科を教科担任としたことで、中学校に行っても戸惑わないと感じる児童が多かった。

④ 【教師の負担軽減】

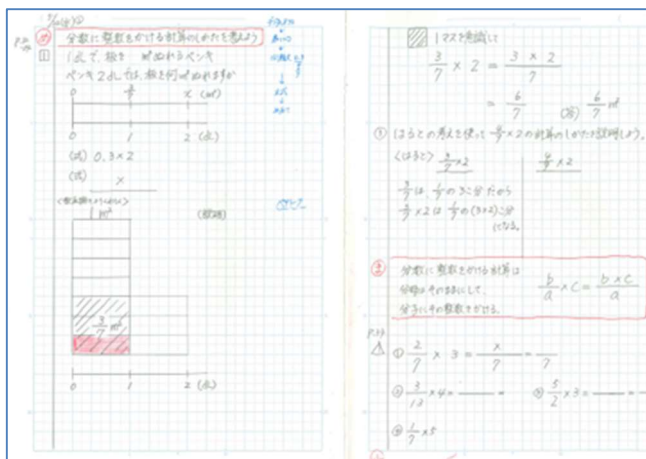
- ・担任に時間の余裕が生まれ、算数以外の宿題点検や教材研究に時間を費やすことができた。
- ・勤務時間外在校時間の縮減にもつながった。



<課題>

① 【授業の質の向上】

- ・サンプルノートがあることで、児童には安心感が生まれ、適用問題までを早めに終える児童が出てきた。
- ・自分のペースで進めていい時間と全体で考える時間の切り替えがうまくできない児童もあり、多様なペースの児童が存在する中、どれくらいのペースで進めるかという課題が残った。
- ・とにかく早く終えたいという気持ち強い児童や他の児童とあまり関わりをもちたがらない児童は気持ちの切り替えができない傾向があった。
- ・タブレットは間違い等をすぐに消すことができるというよい面があるが、書きにくいという面がある。そのため、自分の考えをタブレット上でまとめることを苦手と感じる児童もいた。
- ・タブレットドリルには、とりかかりやすいという利点がある反面、適当にやってしまうという弱点がある。



⑤ 【その他】

授業時間以外で支援を必要とする児童への対応が不足しがちになった。

<対策>

① 【授業の質の向上】

- ・児童と対面する指導者には児童のタブレット画面が見えないため、児童が画面を見る必要がないときや気持ちの切り替えが必要なときは画面を閉じさせた。
- ・授業ペースに関しては、Google フォームでアンケート結果を確認しながら指導者自身で調整した。
- ・タブレット上を書くことを苦手と感じる児童もいるため、時にはワークシートに書いて、考えを交流する時間もあった。
- ・タブレットドリルの弱点に関しては、問題をノート上で解かせ、解答を入力して答え合わせをするという形をとることで対応した。



⑤ 【その他】

家庭学習が滞る児童や授業外で個別に支援が必要な児童へは担任が対応した。